

金融業界をめざす

金融業界をめざす人は、社会の変化を見抜く力を鍛えなければなりません。新しい変化の波を知ることができれば、有望な企業家を探り出して資金を供給し、新しい企業を育てることができます。そのための基礎となるのは、経済学の理論と経済史です。もちろん、銀行制度や証券市場についての基本的な知識も習得しなければなりません。金融論や証券市場論ではそうしたことを学ぶことができます。このほか、国際通貨論や国際金融論では、外国為替市場や国際銀行業務など国際経済の中の金融について学びます。また今日の高度にグローバル化した金融業界で活躍するには、高度な語学力が不可欠です。英語はもちろん、さまざまな外国語に取り組んでください。

■ - 必修科目 ■ - 選択必修科目

区分		授業科目			
		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育 部門	基軸科目	現代社会に生きる			
	人文科学科目	哲学 日本史 外国史			
	社会科学科目	経営と社会 社会学			
	自然科学科目	現象と論理 人間と環境			
	英語科目	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ（コミュニケーション） 英語Ⅳ（コミュニケーション）	英語Ⅴ 英語Ⅵ 英語Ⅶ 英語Ⅷ		
	情報科学科目	コンピュータリテラシー			
	第二外国語科目	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ			
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学Ⅰ 健康・スポーツ科学Ⅱ			
専門教育 部門	専門基礎部門	マクロ経済学入門 ミクロ経済学入門 経済理論入門 現代資本主義入門 統計学Ⅰ 統計学Ⅱ	経済史総論Ⅰ 経済史総論Ⅱ		
	ゼミナール部門	基礎ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅢ (卒業研究)
	フィールドワーク・ 実習部門		社会フィールドワークⅠ	(特Ⅰ) 起業講座Ⅰ	
	理論経済部門		マクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ 経済理論Ⅰ マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ 経済理論Ⅱ	計量経済学Ⅰ 応用経済理論Ⅰ 計量経済学Ⅱ 応用経済理論Ⅱ	
	歴史・政策・金融部 門		金融論 証券市場論Ⅰ 財政学Ⅰ 金融政策論 証券市場論Ⅱ 財政学Ⅱ	国際金融論 国際経済論Ⅰ 商法入門Ⅰ EU経済論 国際通貨論 国際経済論Ⅱ 商法入門Ⅱ	日本経済史Ⅰ 日本経済史Ⅱ
	現代社会部門			産業集積論 起業経営論 地域政策論 サービス経済論	中小企業論 中小企業政策論

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要で

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

流通業界をめざす

小売企業や卸売業などの流通業は、生産と消費を結びつけます。したがって流通業をめざす人は、まず生産と消費の理論と現実を十分に勉強してください。経済学部で開講している多くの科目はこのことについての深い知識を与えてくれるはずです。商業についての理論的検討は、商業経済論で行われます。このほか物流論や交通論では、物流について深い知識を習得することができます。流通のネットワークが国境を越えて広がる現在、この業界で力を発揮するには十分な語学力が不可欠です。英語はもちろん、さまざまな外国語の習得に励んでください。

■ - 必修科目 ■ - 選択必修科目

区分		授業科目			
		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育 部門	基軸科目	現代社会に生きる			
	人文科学科目	哲学 心の科学 地理学			
	社会科学科目	経営と社会 社会学			
	自然科学科目	生命の多様性 人間と環境			
	英語科目	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ（コミュニケーション） 英語Ⅳ（コミュニケーション）	英語Ⅴ 英語Ⅵ 英語Ⅶ 英語Ⅷ		
	情報科学科目	コンピュータリテラシー			
	第二外国語科目	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ			
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学Ⅰ 健康・スポーツ科学Ⅱ			
	専門教育 部門	専門基礎部門	マクロ経済学入門 ミクロ経済学入門 経済理論入門 現代資本主義入門 統計学Ⅰ 統計学Ⅱ	経済史総論Ⅰ 経済史総論Ⅱ 基本簿記	
ゼミナール部門		基礎ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅢ (卒業研究)
フィールドワーク・ 実習部門			社会フィールドワークⅠ	(特Ⅰ) 起業講座Ⅰ	
理論経済部門			マクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ	公共経済学Ⅰ 現代資本主義論Ⅰ 公共経済学Ⅱ 現代資本主義論Ⅱ	
歴史・政策・金融部 門			財政学Ⅰ 国際経済論Ⅰ EU経済論 財政学Ⅱ 国際経済論Ⅱ	西洋経済史Ⅰ 開発経済論 中国経済論Ⅰ 地方財政論Ⅰ 西洋経済史Ⅱ アジア経済論 中国経済論Ⅱ 地方財政論Ⅱ	経済政策論Ⅰ 経済政策論Ⅱ アメリカ経済論
現代社会部門			物流論 交通論 産業技術論 サービス経済論	中小企業論 産業集積論 商業経済論 中小企業政策論	

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要です。

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

公務員をめざす

公務員に必要とされるのは、社会を広く見渡すバランスのとれた知性、社会の未来を描き出す構想力、描き出されたビジョンを実現する政策立案能力、手助けを必要とする人々への温かな目配りです。経済学部で提供するすべての科目がこうした力を養うのに役立ちますが、公共経済学、財政学、地方財政論、公共政策論は公務員をめざす人にとって特に重要です。また諸外国から多くの企業が日本に進出し、たくさんの外国人が日本に居住するようになっている今日、公務員が語学に堪能でなければならないのは当然です。英語力をあらゆる面で鍛え上げると同時に、それ以外の言語の習得にも取り組んでください。

■ - 必修科目 ■ - 選択必修科目

区分		授業科目			
		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育 部門	基軸科目	現代社会に生きる			
	人文科学科目	文学と人間 哲学 地理学			
	社会科学科目	政治と社会 法と社会			
	自然科学科目	生命の多様性 人間と環境			
	英語科目	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ（コミュニケーション） 英語Ⅳ（コミュニケーション）	英語Ⅴ 英語Ⅵ 英語Ⅶ 英語Ⅷ		
	情報科学科目	コンピュータリテラシー			
	第二外国語科目	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ			
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学Ⅰ 健康・スポーツ科学Ⅱ			
専門教育 部門	専門基礎部門	マクロ経済学入門 ミクロ経済学入門 経済理論入門 現代資本主義入門 経済史総論Ⅰ 統計学Ⅰ 経済史総論Ⅱ 統計学Ⅱ	基本簿記		
	ゼミナール部門	基礎ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅢ (卒業研究)
	フィールドワーク・実習部門		社会フィールドワークⅠ	(特Ⅰ) 起業講座Ⅰ	
	理論経済部門		マクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ	公共経済学Ⅰ 現代資本主義論Ⅰ 公共経済学Ⅱ 現代資本主義論Ⅱ	
	歴史・政策・金融部門		財政学Ⅰ 金融論 日本経済史Ⅰ 財政学Ⅱ 金融政策論 日本経済史Ⅱ	地方財政論Ⅰ 経済政策論Ⅰ 地方財政論Ⅱ 経済政策論Ⅱ	EU経済論 アジア経済論
	現代社会部門		地域経済論 食料経済論 工業経済論	産業集積論 経済地理学 社会保障論 公共政策論 (特Ⅰ) 障害者と社会 地域政策論 地域福祉論	環境ビジネス論

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要です。

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

製造業界をめざす

何を作らねばならないのか、何を作ることができるのか、誰に売するのか、どう売するのか、製造業界で活躍するためには、そういったことに対する豊かで鋭敏な感性を磨いておかなければなりません。さまざまな経済理論の理解はそのための基礎となります。産業と技術の歴史を学ぶことも極めて重要です。また、経済活動がグローバル化した現在、語学力はビジネスを行ううえでの前提条件です。英語力をあらゆる面で鍛え上げると同時に、それ以外の言語の習得にも取り組んでください。

■ - 必修科目 ■ - 選択必修科目

区分		授業科目			
		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育部門	基軸科目	現代社会に生きる			
	人文科学科目	哲学 地理学			
	社会科学科目	経営と社会 ジェンダーと社会			
	自然科学科目	生命の多様性 人間と環境			
	英語科目	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ（コミュニケーション） 英語Ⅳ（コミュニケーション）	英語Ⅴ 英語Ⅵ 英語Ⅶ 英語Ⅷ		
	情報科学科目	コンピュータリテラシー			
	第二外国語科目	フランス語Ⅰ フランスⅡ フランスⅢ フランスⅣ			
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学Ⅰ 健康・スポーツ科学Ⅱ			
専門教育部門	専門基礎部門	マクロ経済学入門 ミクロ経済学入門 経済理論入門 現代資本主義入門 統計学Ⅰ 統計学Ⅱ	経済史総論Ⅰ 経済史総論Ⅱ		
	ゼミナール部門	基礎ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅢ (卒業研究)
	フィールドワーク・実習部門		社会フィールドワークⅠ	(特Ⅰ) 起業講座Ⅰ	
	理論経済部門		マクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ 経済理論Ⅰ マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ 経済理論Ⅱ	現代資本主義論Ⅰ 現代資本主義論Ⅱ	
	歴史・政策・金融部門		中国経済論Ⅰ 西洋経済史Ⅰ 財政学Ⅰ 中国経済論Ⅱ 西洋経済史Ⅱ 財政学Ⅱ	日本経済史Ⅰ 開発経済論 金融論 EU経済論 日本経済史Ⅱ アジア経済論	商法入門Ⅰ 国際経済論Ⅰ 商法入門Ⅱ 国際経済論Ⅱ
	現代社会部門		商業経済論 産業技術論	中小企業論 産業集積論 物流論 起業経営論 交通論 中小企業政策論 工業経済論	

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要です。

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

旅行業界をめざす

人々の価値観が多様化するとともに、旅行へのニーズも多様化しています。そうした中で顧客に魅力的な旅行を提案するためには、何よりもさまざまな土地とそこで生きている人々の良さをよく知らなければなりません。地域経済論や地域政策論などを学ぶことによって、地域社会を見る目を養ってください。経済学で鍛えた目は、これまで誰も気付かなかった地域の魅力を掘り起こします。また旅行業界をめざす以上、語学はもちろん大切です。外国の人々ときちんとコミュニケーションできる実践的な語学力を身に付けてください。

■ - 必修科目 ■ - 選択必修科目

区分		授業科目			
		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育部門	基軸科目	現代社会に生きる			
	人文科学科目	芸術文化論 哲学 地理学			
	社会科学科目	経営と社会 ジェンダーと社会			
	自然科学科目	生命の多様性 人間と環境			
	英語科目	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ（コミュニケーション） 英語Ⅳ（コミュニケーション）	英語Ⅴ 英語Ⅵ 英語Ⅶ 英語Ⅷ		
	情報科学科目	コンピュータリテラシー			
	第二外国語科目	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ			
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学Ⅰ 健康・スポーツ科学Ⅱ			
専門教育部門	専門基礎部門	マクロ経済学入門 ミクロ経済学入門 経済理論入門 現代資本主義入門 経済史総論Ⅰ 経済史総論Ⅱ	統計学Ⅰ 統計学Ⅱ 基本簿記		
	ゼミナール部門	基礎ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅡ	専門ゼミナールⅢ (卒業研究)
	フィールドワーク・実習部門		社会フィールドワークⅠ	(特Ⅰ) 起業講座Ⅰ	
	理論経済部門		マクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ ミクロ経済学Ⅱ	公共経済学Ⅰ 現代資本主義論Ⅰ 公共経済学Ⅱ 現代資本主義論Ⅱ	
	歴史・政策・金融部門		EU経済論 財政学Ⅰ アメリカ経済論 財政学Ⅱ	日本経済史Ⅰ 開発経済論 中国経済論Ⅰ 地方財政論Ⅰ 日本経済史Ⅱ アジア経済論 中国経済論Ⅱ 地方財政論Ⅱ	経済政策論Ⅰ 経済政策論Ⅱ
	現代社会部門		交通論 地域経済論 サービス経済論 地域政策論	起業経営論 物流論 中小企業論 経済地理学 地域福祉論 中小企業政策論	

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※教員免許取得をめざす場合は、別途、教職課程の履修、学芸員資格取得をめざす場合は学芸員課程の履修が必要です。

※記載された科目のみでは卒業要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。